

◆第13回 奈良県弓道近的選手権大会

平成22年11月 3日(祝) 橿原公苑弓道場

☆一般男子の部

- ① 乾 光孝 (18中) 射詰競射
- ② 矢野 有吾 (18中) 射詰競射
- ③ 山口 亮二 (16中) 遠近競射

☆一般女子の部

- ① 長濱 有美 (16中)
- ② 岡本 圭子 (15中)
- ③ 東中 千佳 (14中)



◆第36回奈良県中学校弓道新人大会

2010年11月6日(土) 会場 橿原公苑弓道場

【団体戦】

▽男子近的

- ①大成A (藤岡・野口・松村) ②八木B (西谷・福西・駒井)
- ③天理南C (堀尾・嶋崎・岡山)

▽女子近的

- ①香芝A (山崎・辰巳・山本) ②香芝D (弥富・泉・川井)
- ③香芝B (上松・宮谷・中村)

▽男子遠的

- ①白橿A (山本・平岩・吉田) ②橿原C (坂本・池永・谷口)
- ③天理南A (脇田・森馬・玉井)

▽女子遠的

- ①香芝A (山崎・辰巳・山本) ②橿原A (藤井・長町・杉本)
- ③橿原D (芹沢・西藪・大浦)

【個人戦】

▽男子近的

- ①吉田竜也 (白橿) ②藤岡直輝 (大成) ③松村 怜 (大成)

▽女子近的

- ①上松明日香 (香芝) ②弥富舞羽 (香芝) ③和田綾菜 (八木)

▽男子遠的

- ①脇田政宏 (天理南) ②池永太一 (橿原) ③松村 怜 (大成)

▽女子遠的

- ①山崎 遥 (香芝) ②芹沢香佳 (橿原) ③山本奈実 (香芝)



No. 19

先日、三屋裕子さんの「こころと身体の健康」という講演を聴く機会がありました。そこで、健康には①足を鍛えること。②コミュニケーションを持つこと。③目的を持つこと。健康づくりが目的になってはおかしい。健康になって社会参加し、社会に貢献できることが大切であると。

最近、弓を引くとき、坐射で、坐ったり立ったりすることがいかに足腰を鍛えるのに大切かと実感しております。また、いろんな射会に参加し、コミュニケーションを図ることが、心と身体の健康に大いに寄与していると思います。積極的に参加するようにしたいものです。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

■ 全国地連会長会議報告

11月2日に東京中央道場で、平成22年度の全国地連会長会議が行われました。詳細は弓道誌等で報告がありますが、要点を報告します。

- 1) 23年度の行事計画で
・定期中央審査の増設:H24. 2月に名古屋で定期中央審査(教士・六～八段)を実施する
・アジア・オセアニア地域セミナー及び特別審査を4月に名古屋で行う
・主として中央道場で行っていた主催行事を全国的に展開する。(例、遠的選手権大会(弘前)、中央研修会(名古屋)、講師研修会(静岡)等)
- 2) 臨時中央審査の実施の管理業務について、23年4月より申し込みの受付は従来通り全弓連の分室で行うが、その後の帳票整理等は主管地連がすることになりました。
- 3) 公益法人制度改革について、12月までに最初の評議員候補47名を選出、23年1～2月に公益申請予定。順調にいったら、半年ぐらいで公益認定がおりれば、新しい体制でスタートすることになります。
- 4) 22年度優秀地連得点表では、54点、現在第9位です。高校総体男子4位・国体での少年女子遠的2位・遠的選手権の山口選手の3位が得点されています。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

■ 第2回昆布杯弓道大会

橿原市弓道協会（橿原支部）

私たちの大先輩、故昆布富明先生は、奈良県弓道連盟会長として県連の発展に寄与してこられると同時に、私たちの橿原市においても多大な功績をあげてこられました。

なかでも市内中学校での弓道部の設立と市内2カ所での弓道教室の開設は、現在の橿原市弓道協会の組織を構成する母胎となっております。

弓道の発展、弓道人口の拡大を願われるなか、とりわけ初心者を対象とする弓道教室の開催は、飛躍的に橿原市の弓道人口を増やす原動力となってきました。

昨年、先生のご遺族から、「記念になるものを」とのご厚意を頂ました。故昆布先生のご熱意・ご意志を受け継ぐことを祈念し、「昆布杯」という冠を頂いた形で大会を昨年度より開催しており、本年度も第2回昆布杯弓道大会を10月17日（日）に県立橿原公苑弓道場で開催し、約40名の方々に参加頂きました。

昆布杯弓道大会は市協会会員による「昆布杯」の他、現在市弓道教室に通っておられる方々の「弓道教室の部」、その他弓道愛好家による「オープン」の部で10射的中制で実施し、また、最初の一手の採点による技能優秀者も表彰しています。

<入賞者>

昆布杯

- ①長濱 有美
- ②衛藤 博史
- ③高嶋 康司

弓道教室の部： ①吉村 由紀子

オープンの部： ①市場 友佳

技能優秀者： 長濱 有美



◆ 第63回 近畿高等学校弓道大会

11月6日、7日、京都市武道センター弓道場に於いて、近畿高等学校弓道大会が行われた。個人戦は男女各60名、団体戦は男女各20校が参加した。奈良県勢の結果は次の通り。

【個人戦】

男子 予選通過者

吉村 和也(橿原) 田中 智(高田商業)
尾崎 龍太郎(五條) 西出 和真(王寺工業)
横井 稜(平城)

女子 予選通過者

杉本 光(郡山)

入賞者

男子 3位 尾崎 龍太郎(五條)
5位 田中 智(高田商業)
7位 吉村 和也(橿原)

【団体戦】

男子 予選通過

王寺工業(寺澤伸
太 向本啓太 爲
平啓太 古川五月)
高田商業(本川侑
樹 小林亮仁 栞
村遼 田中智)



男子団体 優勝 王寺工業高校



スポーツ指導員養成講習会

須田 三郎先生の講話 その1-2

(8月1日の講習会でのお話を数回に分けてお届けしています。
前号の続きです)

高校の部顧問時代に私が一番活用したのは、運動能力の低い生徒でも可能という特性で、励まし、耐えることによって一定のレベルまで引き上げることができ、それなりの達成感を感じさせられる。また、一貫して誠を尽くすことのみを求めて結果は問わないことを通して生徒たちの人間性の陶冶に幾分なりとも寄与できたのではないかと思っています。

弓道の歴史

現代弓道を考える手立てとして、日本弓道の歴史を知識として持っていることは大切だと思います。

私は和弓の歴史の大きな節目を次のようにとらえています。

- 1 上古の木弓の時代、伝説の時代を経て、
- 2 白鳳時代の最後・奈良時代の初め(天武9(680)年)、大和国長柄社で騎射(うまゆみ)が行われ、大宝2年(西暦702年)に大射(たいしゃ・射礼)の様法が定められ、これによって「戦闘・狩猟の実用の弓」から「礼の弓・武芸の弓」へ転換した。
- 3 射礼に続いて賭り弓(のりゆみ)が盛んになり、宮廷貴族の弓道が確立していった。
(鳥羽天皇(永久4(1116)年、鳥羽離宮(城南宮)で流鏑馬競馬を催した。以後、12世紀は流鏑馬、それ以後は笠懸・犬追物が盛んに行われた)
- 4 15世紀末(明応年間)、日置弾正正次が、礼中心の射技を排斥し実戦用の射技を提唱・伝授、日置吉田一統を中心に日置流が一世を風靡し、射法が飛躍的に向上し、流派が発展した。

永禄8(1565)年、正親町天皇・4月19日、東山今熊野観音の別当が初めて三十三間堂通し矢を行った。以後、次第に通し矢が盛んになっていき、これによって弓具の改良が進んだ。(寛永19(1642)年、弓師備後、射術稽古のため11月浅草矢崎に三十三間堂を建てる。正保2(1645)年、江戸浅草三十三間堂で通し矢始まる。貞享3(1686)年、4月和佐大八郎、総矢数13,053本、通し矢8,133本で天下一となる。元禄11(1698)年、9月、浅草三十三間堂焼失。➤

元禄12(1699)年、5月、深川に新三十三間堂建設)幕末の1860年代、実用の弓のみの実施のお達しがでるまで、通し矢が行われた。(明治5(1860)年、江戸深川三十三間堂取り壊しの命がくだる)

- 5 昭和9(1934)年、「弓道要則」制定→昭和28(1953)年、弓道教本第一巻刊行 新しい時代へ向けた「弓道」へ発進した。

文化は時代とともにあるもので、少しずつ考え方も形も変化していくのが当然、射法にしても弓具にしても今後も変化・改良されていくのかもしれませんが、竹弓が使用されてからでも千数百年の流れの中で育てられたものであることを考えると、作法・用具など、一つひとつを徒疎かにはできません。

不易流行という言葉がありますが、弓道の不易なものは何かをしっかりと掌握し大切にしていかなければいけないと思っています。

弓道の目標は「真・善・美」といわれますが、特に「美」は和弓が最も重視しなければならない、いわば日本弓道の究極の目標と位置付けて良いでしょう。

美しさを求める点では他の多くのスポーツも同じでしょうが、弓道の場合は、より総体的・総合的な美しさが求められ、一言で「射品」と言われています。射品は「真」なるものと「善」なるものの裏打ちによってなるものです。歴史の延長上で現代弓道を考え、多くの人々に心から愛されるものに育てていきましょう。(つづく)



平城京遷都1300年祭で古代行事の一つとして再現された「射礼(じゃらい)」のシーン。(2010年10月24日)